

20世紀の偉大な4×4たち

The Epoch-Making

SPECIFICATION

ランドクルーザー 70バン・LX・FRPトッパ (P-BJ74V)
車両本体価格:2,489,000円('86年当時)
全長×全幅×全高:4,265×1,690×1,915mm/ホイールベース
2,600mm/トレッド(前・後):1,425・1,420mm/最低地上高:
185mm/車両重量:1,870kg/乗車定員:2(5)名/最小回転半
径:5.8m/エンジン形式:水冷直列4気筒OHV・ディーゼル・ターボ
チャージャー付き/エンジン型式:13B-T型/総排気量:3,431cc/
最高出力:120PS/3,400rpm/最大トルク:29.0kgm/2,000rpm/
タンク容量:90L/トランスミッション:前進5速・後進1速/トランス
ファー:セレクトレック式2速(HI・1.000/LO・1.963)/ブレーキ(前・
後):ベンチレーテッドディスク・リリーディングブレーキングドラム/サス
ペンション(前・後):リジッドアックスルーフスプリング・リジッドアク
スル式リーフスプリング/タイヤサイズ:215SR15



ランクルはドリームメーカー
自然の中の暮らしを夢見る

白いベンチオンは「KEN HOUSE」という名前だった。オーナーの新田健一さんは15年ほど前、京都での運送業経営から離れ、富士見高原でベンションを開いたときにBJ74Vを新車で買った。若い時分にトラックで仕事をしてきたときから、いつかはランクルと一緒に山で暮らしたい、という夢があったという。

「ランクルはいいクルマだね。走りもいいけど、ドライバーに夢を与えてくれるでしょう。都会に任んでランクル乗っている人だったら、ハンドル握っているときに自然の中の暮らしを夢見るんじゃないかなあ」

小さなことに、くよくよしない。伸び伸びと好きなことに打ち込める。そんなおらかな生活の道具として、ランクルは確かにふさわしい。頭の中で描いたそんな生活を、新田さんは都会の便利さと引き替えに実現させた。

だが、BJ74Vが高原での生活すべてに役立つかという点、そんなことは決してない。高速道路を楽に、しかも早く移動したいときは乗用車の方がいいし、ちょっとした食材の買い出しには、手軽に乗れる軽自動車で充分だ。我慢したり、あえて不都合なことをする理由はない。荷物をたくさん運ぶときや、ランクルの走りや雰囲気を楽しむためにBJに乗る。それが新田さんの流儀だ。テニスコートの横には、スバルのセタンと軽四駆が置いてあった。

**4気筒でもクラッチミートで身震いなし
トルクの太さに排気量アップを感じる**

目をあためて、BJ74Vを運転させてもらうことになった。天気は雨模様だったが、それでも湿気は肌にとわりついてこない。BJに乗り込んでふとインパネに目をやると、エアコンが付いていないことに気づいた。なるほど、

